

ミゾゴイ *Gorsachius gousagi* の岩手県希少記録

藤井忠志¹・多田頼申²

The Rare Record of the Japanese Night Heron *Gorsachius gousagi* in Iwate Prefecture, Japan.

Tadashi FUJII¹ and Yorinobu TADA²

1 岩手県立博物館 . 020-0102 盛岡市上田字松屋敷 34. Iwate Prefectural Museum, Morioka 020-0102, Japan.

2 遠野郷八幡宮. Tohnogou Hachimangu

We observed a Japanese Night Heron *Gorsachius gousagi* at Tohnogo Hachimangu glassland, Tohno, Iwate Prefecture, Japan. One Japanese Night Heron came flying there on May 17, 2011 and stayed there till June 1. We observed its predation and mimetic behavior. From its features, we identified it having the adult plumage of the Japanese Night Heron. This is the rare record in Iwate Prefecture, Japan and it is a valuable for the biogeography distribution.

はじめに

ミゾゴイ *Gorsachius gousagi* の渡来記録は、日本でも少なくその生態は謎が多い。本県においても稀な記録であることから、観察記録としてとどめておく。

観察記録

- 1 種名・観察個体数：ミゾゴイ 1羽
- 2 観察者名：藤井忠志・多田頼申
- 3 観察日時・場所：2011年5月17日。場所は岩手県遠野市遠野郷八幡宮（北緯39度3分，東経141度5分）。
- 4 観察距離：約50m以上離れた地点から，目視および400mm望遠レンズを装着したデジタルカメラで記録撮影を行った。
- 5 観察した環境：岩手県遠野郷に位置する八幡宮境内3町歩（9,000坪=29,700㎡）内の流鏝馬用の馬場（1周450m）として芝刈りをした直線部分220mほどの草地で，ミズナラ *Quercus mongolica* var. *grosseserrata* が優占する雑木林が隣接する。普段，参道側に人の出入りはあるが，馬場側には人の出入りはない。数年前から本種らしき鳥を目撃していたが，何度も逃げられ，種名が判明していなかった。
- 6 形態に関する記述：全長50cmほどあり，上面が赤褐色，下面は淡黄褐色で黒褐色の縦斑がある。黒くて短めの嘴で，眼の周囲と眼先は水色。頭上は暗赤褐色で，後頭に短い冠羽があった（写真1・2）。
- 7 種を同定した規準：日本鳥類目録（改訂第6版）で

記録のあるサギ類19種中，シラサギ類6種類とすでに絶滅したハシブトゴイ *Nycticorax caledonicus* を除くと，サギ科鳥類は12種類となる。その中でミゾゴイに類似した種としては，ズグロミゾゴイ *G. melanolophus* とゴイサギ *N. nycticorax* 幼鳥が考えられる。ズグロミゾゴイの頭上が黒く冠羽が長い，初列風切先端が白いのに対し，本個体は頭上が暗赤褐色で後頭の冠羽が短い，初列風切の先端は白くないなどから，ズグロミゾゴイとは異なる。また，ゴイサギ幼鳥の羽毛は褐色で赤みがなく，嘴は長いのに対し，本個体の羽毛は赤褐色で嘴も短いなどから，ゴイサギ幼鳥ではない。以上より，ミゾゴイと同定した（写真1）。



写真1 草地で採餌行動中のミゾゴイ

2011年5月17日（撮影：多田頼申）

- 8 観察した行動：5月17日15:00頃，遠野市松崎町白岩遠野郷八幡宮境内の草地で，ミミズを捕食していた。同様の行動は，6月1日まで時間に関係なく

継続された。カラスが上空で鳴くと、首を伸ばしてじっとする状態、すなわち木の枝に擬態する行動が何度も見られた(写真2)。人間が接近すると、飛翔せずに走って逃げる行動が見られた。



写真2 樹の枝に擬態したミゾゴイ
(撮影：多田頼申)

9 過去の記録とその文献：いわてレッドデータブック(岩手県 2001)によると、最近の県内記録は2000年8月に紫波町での目撃記録がある程度で、その後の情報は途絶えている。また本種に関する県内記録が記載されている文献を、以下に挙げる。

- 1) 安藤泰彦(1986) 岩手の鳥類〈岩手の生物〉日本生物教育会
- 2) 葛精一監修(1978) 岩手の鳥獣, 岩手県環境保健部自然保護課, 盛岡.
- 3) 遠藤公男ほか(1987) 岩手の鳥獣百科, 岩手日報社.

なお上記のほか、雫石町七ツ森生森山の北側林道で、渡邊治氏が2011年4月28日13:30頃に撮影された性別不明の成鳥1羽(写真3)が存在する。

10 その他：第一発見者 多田頼申

11 考察：本種は、関東以南の本州・四国・九州・伊豆諸島に夏鳥として飛来し、繁殖活動を行う。台湾・フィリピンで越冬し、九州や南西諸島でも少数が越冬する(桐原2000)。1970年代には盛岡市近郊の北上川河畔のスギ林で5月中旬頃から特有のウシのような本種の鳴き声を聞いたが、1980年代以降は聞かれなくなった(岩手県 2001)。いわてレッドデータブック(岩手県 2001)ではBランクに位置づけられ、観察例が少ない。そのため生態が不明であるばかり

でなく、日本特産種として、生物地理学的な分布上の価値もあわせもっている。従って、今後は本種に関する分布情報を収集すると同時に、その生態を精査したいと考えている。岩手県内のみならず国内においても森林開発などにより、個体数は著しく減少している種と考えられ(杉坂 2005)、本種の保護のためには、サワガニ *Geothelphusa dehaani* が生息する沢や樹木が密生する森林など、多様な環境を保持する必要がある。



写真3 雫石町七ツ森のミゾゴイ

2011年4月28日(撮影：渡邊治)

引用文献

- 安藤泰彦(1986) 岩手の鳥類〈岩手の生物〉pp 90-99. 日本生物教育会.
- 遠藤公男ほか(1987) 岩手の鳥獣百科. 岩手日報社, 盛岡.
- 岩手県(2001) いわてレッドデータブック. 岩手県, 盛岡.
- 桐原政志(2000) コウノトリ目サギ科. 日本の鳥 550 水辺の鳥, pp 66-67. 文一総合出版, 東京.
- 葛精一監修(1978) 岩手の鳥獣, 岩手県環境保健部自然保護課, 盛岡.
- 杉坂 学(2005) 色と大きさでわかる野鳥観察図鑑. 成美堂出版, 東京.

要旨

岩手県遠野市遠野郷八幡宮境内の草地で、ミゾゴイを観察した。1羽が2011年5月17日に渡来し、6月1日まで滞在した。その間、捕食行動および擬態行動を観察した。その特徴から、ミゾゴイ成鳥個体と同定した。県内希少記録であると同時に、生物地理学的な分布上の価値をもっている。

キーワード：ミゾゴイ, 日本特産種, いわてレッドデータブック